

## 固定チームナーシング研究会 地方会だより

これからも実践事例をみんなで共有していきたい

第20回固定チームナーシング研究会北陸ブロックリーダー  
大西真奈美【芳珠記念病院】

第20回固定チームナーシング北陸地方会は、2022年10月22日にオンラインで開催しました。金沢医科大学病院の中村真寿美看護部長を中心に、看護部の皆様のご尽力により3年ぶりに開催することができました。オンラインでの進行にもかかわらず、約270名のお申し込みをいただきました。テーマは「Z世代の新人と共に育つ」です。

今回は新会長である北神洋子先生の講演をはじめ、富山県・石川県から10例の実践報告をしてもらいました。意見交換の中では、西元勝子先生、杉野元子先生にもご参加いただきました。

とくに印象的だったのは、北神会長自身が、固定チームナーシングで育ち、ライフステージが変化しても看護師として働き続けられている経緯をお聞きすることができました。また意見交換ではオンラインではありますが、西元先生、杉野先生の声をお聞きし、励まされた参加者も多かったようです。質疑応答も含めた情報交換の時間が十分とれず、発表者の中には残念に思った方もいらっしゃるかもしれません、今年度の課題としていきたいと思います。

第20回という節目の会ということで、第1回からの資料集を読み直してみました。第1回のテーマは「看護が果たす役割を固定チームナーシング」で、サブタイトルに「看護に責任と継続を」とあります。当時は石川地方会としてスタートしています。第6回から北陸地方会となり、近隣県からの実践事例も多く掲載されていました。外部環境が変化して

北

陸

も「看護の責任と継続」という、われわれのありたい姿をめざし、人材育成や多職種協働、地域内連携という課題に取り組む実践事例が積み重なった年月だと、改めて実感しました。

北陸ブロックは認定指導者数も他ブロックに比べ少ない現状です。また、年々地方会に参加する施設も減少しています。各施設が選択する看護提供方式は、ありたい姿を実現するために様々であることは当然です。他方、高齢社会において多職種協働は重要です。

北陸地方会では今後も、固定チームナーシングの特徴である小集団活動によって達成感や、やりがいを感じ取れるチーム作りそのものが成長の場であることを伝えていければと考えています。引き続き、実践報告を共有する場をつくっていきます。

第21回（2023年度）北陸地方会は、2023年11月18日（土）金沢医科大学病院北辰講堂にて対面で開催予定です。詳細は固定チームナーシング研究会HPにアップしていきます。多くの方のご参加をお待ちしております。

固定チームナーシング研究会  
第21回北陸地方会  
テーマ 全世代を支える看護実践

1. 日時：2023年11月18日(土)9:00～13:00  
2. 会場：金沢医科大学病院 中央棟4階 北辰講堂  
3. プログラム  
①実践講座 認定3期生 伊藤加代子氏 名古屋市立大学病院 副看護部長  
認定4期生 大河正美氏 金沢医科大学病院 看護部長  
②一般演題 2群8演題  
4. 参加費：2000円(申込後に参加費振込先を連絡します)  
5. 演題申込み：2023年7月1日(土)～8月31日(木) 演題名のみ  
6. 参加申込み：2023年8月1日(火)～9月30日(土)  
7. 申込先：メールアドレス kmukango@kanazawa-med.ac.jp



【問合せ先】金沢医科大学病院 看護部 事務 ☎ 076-286-3511(代)内線:35313

80 オン・ナーシング Vol.2 No.3 June 2023

第

10回固定チームナーシング長崎地方会は新型コロナウイルス感染防止対策を考慮し、2022年11月12日、ハイブリッド（集合+オンライン）形式で開催しました。「責任と継続性のある看護へ小集団活動の成果を共有しよう～」をテーマに10施設、154名の参加がありました。

固定チームナーシングは看護提供方式の1つであり、患者中心の質の高い看護を提供するためのシステムです。患者さん・家族の思いを大切に継続性のある看護を実践するためには小集団活動の考え方を基本理論にしています。ここ数年はコロナ禍でやむをえず中止や抄録のみでしたが、久しぶりに成果発表会を開催することができました。

今回の地方会の発表は5演題で、コロナ禍における看護の提供、患者との関わりの中で取り組んだ内容でした。成果発表は表のとおりです。

- (1) 患者とその家族が安心して療養できる場所を支援する：聖フランシスコ病院  
退院支援情報シートやケアプログラムシートの活用で多職種と連携し退院支援につながった
- (2) 離床記録を活用した離床指導実施について：光晴会病院  
離床パンフレットを可視化することで統一した指導や患者の離床意欲につながった
- (3) 脳神経外科患者の膀胱留置カテーテル使用比減少—膀胱留置カテーテル早期抜去の取り組みについて：長崎県島原病院  
フローシートや抜去可能判断基準で不要な長期膀胱留置カテーテル減少につながった
- (4) アセスメントツールを取り入れたせん妄カンファレンスへの取り組み：光晴会病院  
アセスメントツールを活用したせん妄カンファレンスは情報共有に効果があった
- (5) 早産児の皮膚を守るために—週数別清潔ケアプラン表の作成活用を行って：佐世保市総合医療センター

長

崎

## 固定チームナーシング研究会 地方会だより

第10回固定チームナーシング長崎地方会大会長  
増田千代子

同事務局担当

大場寿満・藤本真一

【特定医療法人 光晴会病院】

プランに沿った計画の変更、スタッフのスキンケアに対する意識が高まった

アドバイザーに北神洋子会長、西元勝子名誉会長、杉野元子先生をお迎えし、5演題の成果発表後、各演題にコメントをいただきました。

成果発表後、各演題に（1）固定チームの組織図は各自の役割を明確にすること、（2）固定チームナーシングの基本・継続看護が実践できるように看護の目標が患者と共有できるようにすること、（3）データ収集と分析を行う際の患者の属性をしっかりと行うとわかりやすい、などのアドバイスは、基本に立ち返る良い機会となりました。

またこれらは、日々の実践の中で抱えている問題や課題を解決するためのヒントとなりました。変化する社会の中、コロナ禍から得た思い・学びを強みに、さらに役割発揮できるよう、踏ん張って楽しんで看護していきたいと思います。

長崎地方会の第11回は、2023年11月11日(土)に佐世保

市で開催予定となっています。ぜひ、対面でお会いできることを楽しみにしております。



コロナ禍から得た思い・学びを強みに、踏ん張って楽しんで看護に取り組みたい